

【地域の現況と問題点】

- ・津山市の人口は、減少傾向、特に旧町村で大きく減少、少子高齢化もさらに進行。
- ・全人口同様、高齢者人口も津山市中心部に集積。
- ・世帯数は、高齢者のみの世帯、高齢単身世帯が増加傾向。
- ・主要施設は、中心部周辺に集中。旧町村でも病院、スーパー等が支所を中心に集積。
- ・中心部では居住人口、従業者数は減少傾向。

【公共交通の現況と問題点】

- ・津山広域バスセンターを中心にバス網形成も、依然バス空白地域が残る(空白地域の人口は、1.4万人、全人口の12%)。
- ・中心部では、バス網は密ではあるが、バスの分担率は周辺部と比べると低い。
- ・バスの輸送人員は減少が続き、JRの乗車人員も増減をしている中で、H26はH22を下回る。
- ・バス路線別では、ごんごバス東環状線が増加傾向にあり、その他のごんごバスもここ数年は増加傾向。
- ・一方で、民間の中鉄北部バスは、ごんごバスに並行する路線が多いこともあって利用者減が継続。
- ・バス停別の利用者数は、中心部やその周辺の乗換拠点或いは目的地となっている商業施設、病院等での利用が多い。
- ・隣接市町を連絡する路線のうち、高校生の通学を対象とした競合がある路線やJRが並行する路線では、利用が少ない。
- ・駅利用者は、津山駅が突出し2千人/日を超えるが、その他の駅では、東津山駅の119人/日を除くと、100人/日以下。
- ・津山線では運行本数は、47本/日で前回計画策定のH22と変化がないが、因美線では4本、姫新線で2本の減少。
- ・バスに対する補助は、減少傾向にあったものの、H26からは増加に転じる。
- ・阿波地域では過疎地有償運送が行われているが、ボランティア側も高齢者が含まれる

【地域の課題】

- 本格的な人口減少、少子高齢化の進展に対し、これを克服するまちづくり**
- ・産業構造、地域構造の変化、多様なニーズに応じた雇用創出、子育て環境、高齢者対策への取り組み
  - ・特に中心部周辺の郊外型店舗の進出と集積に対する中心部の空洞化、高齢化への対応
  - ・中心部での活性化に対する早急な対応
  - ・コンパクトシティを目指した中心部、地域生活拠点等への都市施設の誘導、集約
  - ・**県北の中心都市としての拠点性強化**
  - ・就学、雇用、買物、通院等の集積と高機能化、多様化

【地域交通への課題】

- 地域構造に応じた交通体系の構築**
- ・中心部、地域生活拠点、小さな拠点を連絡する交通軸の強化
- 広域交通体系の構築**
- ・隣接市町、県内広域交通拠点への連携強化
- 少子高齢化に対応した交通体系**
- ・高齢ドライバーへの事故抑制(自動車を運転しなくても生活できる交通体系)
  - ・子育てを支援する交通体系

【公共交通の課題】

- 持続可能な公共交通体系の構築**
- ・バス利用者の減少が続く中で、将来においても維持していくための効果的・効率的な公共交通体系構築
  - ・過疎化進展により、公共交通の大量性を十分に活かせない地域での少量輸送に対応した交通体系への転換と推進
  - ・供給側への対応として、交通事業者の経営体力の維持と事業継続体制の確立、担い手(二種免許保有者等)の持続的確保
- 地域構造に応じた公共交通体系の構築**
- ・高齢ドライバーの免許返納に対する受皿としての公共交通の役割強化
  - ・公共交通からの子育て支援のあり方
  - ・地域構造に応じた中心部、地域生活拠点を連絡する鉄道、幹線バス交通軸の維持
  - ・地域生活拠点、小さな拠点と集落を連絡する少量輸送体系の導入

【交通の状況(公共交通を除く)の問題点】

- ・隣接市町との通勤通学流動は、美咲町、鏡野町からの流入、勝央町への流出が多い。
- ・通勤通学での公共交通利用は、市内で1.4%、市からの流出で7.2%、流入で12.2%と極めて低い割合(H22)。
- ・自動車保有台数、免許保有者数は、ほぼ現状で推移、高齢者が全体の24%を占める。
- ・55-64歳の免許保有率は高く、今後、高齢者の免許保有率はさらに高まる見通し。
- ・免許自主返納者は、わずかながらも増加傾向。

【アンケート調査結果からみた公共交通の現況と問題点】

- ・自動車利用が多く、鉄道、バスの利用は少ない。
- ・バス、鉄道を利用しない理由の第1位は、自分で運転できるで、公共交通の必要性が低い方が多い。
- ・鉄道では、68%、バスでは、58%が現状は維持すべきとの意見で、将来へは80%が不安を感じているが、公共交通の利用意向は50%弱で、自分で利用して維持に寄与するという意識は低い。
- ・おかやま愛カードの認知度は47%で、4%が所有している。タクシー運賃の割引特典を利用している割合が高い一方、ごんごバスが対象外とあってバス運賃割引特典の利用は8%低い。
- ・中心部への来街頻度は低く、さらにバスでの来街は3%に留まる。

【上位計画・関連計画】

- ・まちづくり施策と連携し、地域交通ネットワークを再構築 地域実情を踏まえた多様な交通サービス展開を後押し
- ・中心拠点と地域生活拠点を相互連絡する交通や情報などのネットワークにより、市域全体での連携・交流
- ・持続可能なまちづくりと地域間連携を推進
- ・県北の中心拠点にふさわしい活力ある都市
- ・県北の中心都市としての拠点性向上を目指したまちづくり
- ・「みんなで支え合うまちづくり」「多様な地域交流の促進」
- ・賑わいと交流の創出

【公共交通への要請】

- ・「コンパクト+ネットワーク」の形成に資するため、「地域公共交通網形成計画」と「立地適正化計画」の着実な策定、人口減少に対応した持続可能な交通手段の導入
- ・公共交通の再編・整備、公共交通の利便性向上
- ・津山駅周辺整備、市民が利用しやすい公共交通体系の整備と確保
- ・中心市街地内の回遊支援 市街地内をきめ細かく巡回するバス路線やトランジットモールの検討
- ・津山駅北口広場を中心とした整備、中心市街地での低床ループバス運行及び利用促進
- ・城東、城跡周辺、城西地区の回遊ルート整備、みまさかスローライフ列車の充実と沿線の賑わい創出

【地域活性化との連携・支援】

- ・福祉、観光、にぎわい創出における公共交通に対する要請に対応しながら、さらに潜在需要を発現
- ・中心部の企業、商店街等と連携し、公共交通の利便性向上と中心部への来街を促す取り組み
- ・津山駅周辺の整備に対する連携・支援

【広域公共交通体系の構築】

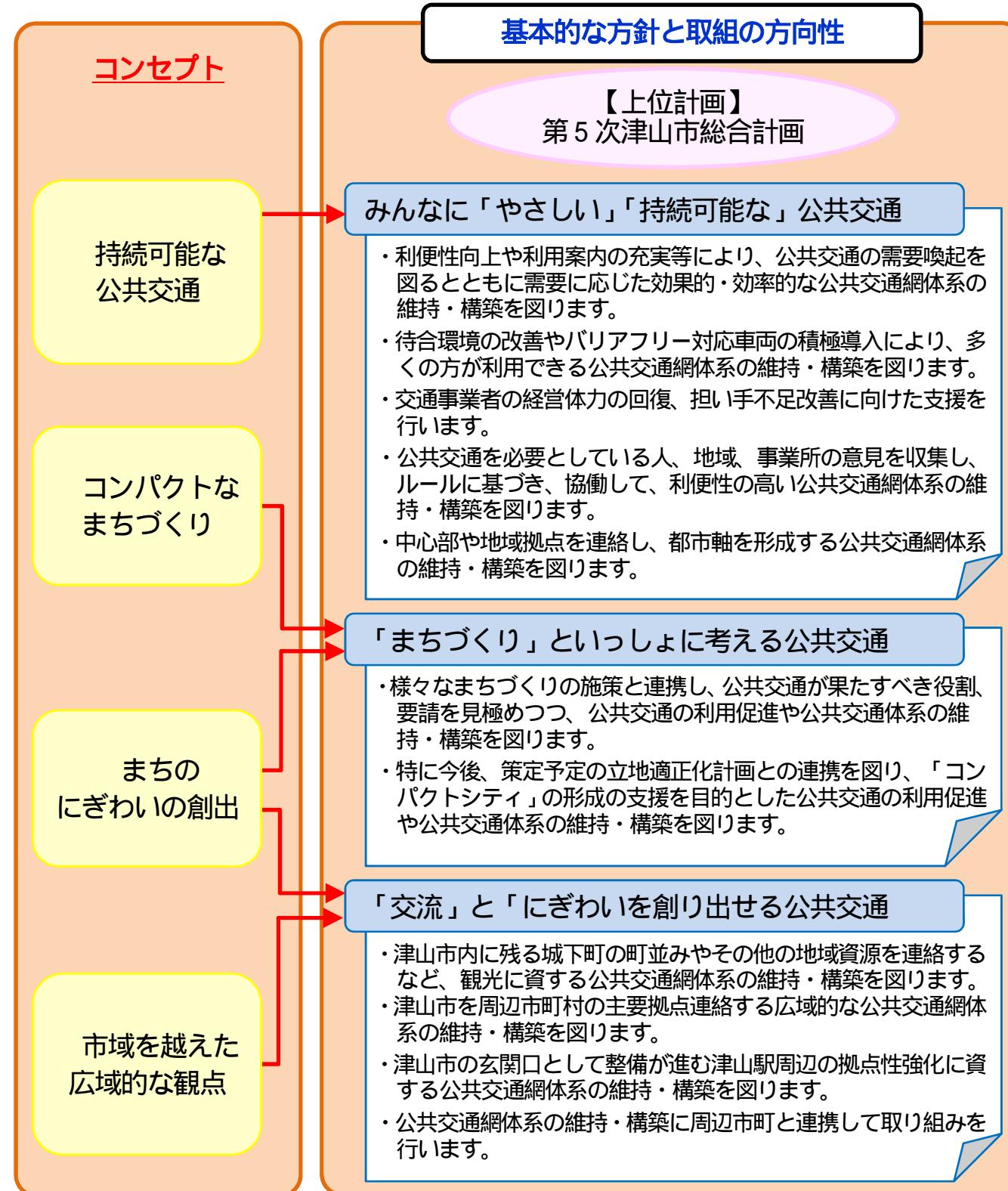
- ・公共交通の大量性、速達性、定時性を活かした隣接市町、県内広域交通拠点への連携強化
- ・共同運行バスに対する適切な運行形態のあり方

計画の前提（対象）

- ・本計画は、津山市における鉄道、バス、乗合タクシーを対象とし、津山市が目指すまちづくりと連携しながら、その利便性・快適性・円滑性を将来においても維持・確保を目的とするものである。
- ・バリアフリー法に基づき高齢者、障害者の移動等の円滑化を目指すものであるが、これを利用することができない福祉的交通や私的交通は対象としない。

計画の対象地域：津山市全域

計画の期間：平成29～33年度（5か年）



目標とする公共交通体系

- 中 心 部：アルネ及び商店街を中心とする地域  
地 域 拠 点：支所等を中心として商業、医療等主要施設が集積している地域  
乗り換え拠点：鉄道とバス、バス相互、乗合タクシーとバスが結節し、乗り換えを行う拠点  
公共交通軸：鉄道、幹線バスにより津山市の都市軸を形成し、周辺市町と連絡する交通軸  
幹 線 バス：バスの大量性を活かし、通勤通学を始め買い物、通院等に対応し、地域拠点と中心部を連絡するバス  
支 線 バス：地域拠点や乗り換え拠点と周辺集落を中心に連絡するバス路線  
乗合タクシー：バスでは対応できない空白地域において、これらと乗り換え拠点を連絡する乗合路線

